

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 4 回 次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり有識者協議会			
事務局 (担当課)	都市計画課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 7 (直通)		
	生涯学習課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通)		
	公園課	電話 0 4 2 - 7 0 7 - 7 0 2 2 (直通)		
開催日時	令和元年 1 0 月 7 日 (月) 午後 6 時 3 0 分 ~ 午後 7 時 3 0 分			
開催場所	プロミティふちのベビル 2 階 F 会議室			
出席者	委員	3 人 (5 ページのとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	9 人 (都市計画課長、生涯学習課長、公園課長他 6 人)		
	運営・検討支援 業務受託者	2 人 (セントラルコンサルタント株式会社)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 4 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由				
会議次第	< 開会あいさつ > 1 市民検討会委員アンケートの結果報告及び今後の進め方 について 2 市民検討会委員アンケートの公表について			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。() は委員の発言、 [] は事務局の発言)

1 経 過

都市計画課長による開会の後、有識者協議会鈴木会長の進行のもと傍聴の確認を行い、市民検討会委員アンケートの結果報告や今後の市民検討会の進め方、市民検討会委員アンケートの公表について意見をいただいた。

2 議 事

(1) 市民検討会委員アンケートの結果報告及び今後の進め方について

【市民検討会委員アンケートの結果報告について】

先日実施した市民検討会委員アンケートについて、本日時点で20名から回答があり、次の3つの設問に回答をいただいた。1つ目は今後の進め方について検討すべき内容やその順位付け、2つ目は北口を含めた淵野辺駅周辺のまちづくりの方向性や目指すべき姿、3つ目にまちづくり、公共施設、公園についての魅力向上や地域課題の解決のためのアイデアについてであった。

取りまとめた結果、1つ目の設問の今後の進め方については、今まで通り又は市の進め方で良いとする回答、公共施設を修繕すべきか、単独又は複合化して建て替えるべきかどうかを明確にするという回答、まずはまちづくりの方向性を決めるという回答、そして、施設を公園内に建てるかどうかを明らかにするという回答などが複数あった。また、2つ目のまちづくりの方向性や目指すべき姿、3つ目の課題解決のアイデアについては、淵野辺駅の北口と南口を合わせて考えるという回答、公園を拠点としたまちづくりを考えるという回答、公共施設の複合化や建て替えを行い市民ニーズに合わせていくという回答などが多くあり、委員の様々な声を聴くことができた。

今回提示された資料は、アンケートの回答をある程度要約して回答者ごとに整理しているが、何名ぐらい類似した回答があったのかなど定量的にも整理できないか。また、回答をキーワードとして整理すると今後の検討にも役立つのではないか。

回答の中には表現が具体的なものもあればそうでないもの、また強弱もあるため、今回提示した資料では定量的な整理は行わなかったが、今後、取りまとめ方を工夫する。

アンケート結果を踏まえると、行政と有識者協議会、市民検討会のそれぞれの役割や位置付け、関係性を明確にすること、そして、そろそろ市民検討会の目標やスケジュールをある程度提示することが必要である。

【今後の市民検討会の進め方について】

市民検討会においては、これまでの議論を通じて、次世代に引き継ぐ淵野辺ということで、淵野辺というまちに高い愛着を持っていること、良いものを残しつつ、悪いものを更新する、これからの時代のニーズに合わせる必要があることを確認できたところである。

そして、今回のアンケート結果などを踏まえて、今後の市民検討会の進め方のたたき台として、有識者の助言をもとに4つのポイントに整理した。

1つ目は、これまでの市民検討会の議論で見えてきた「次世代に引き継ぐ淵野辺」をベースにオープンハウスや市民へのアンケートを実施し、次世代に引き継ぐまちのイメージについて広く市民意見を聴取し、今後の淵野辺の方向性を確認すること。

2つ目は、他市の事例や本市の諸計画、今後本市が直面する人口減少、超高齢社会を迎えるにあたり必要な全市的な情報を改めて確認し、それらも踏まえ淵野辺ですべきことの議論を実施すること。

3つ目は、基本計画案の検討過程において、市が検討したパターンとその前提となった条件等を提示して、実態の共通認識を持つこと。

4つ目は、市民が主体となったまちづくりを行うために、市民検討会だけでなく施設関連団体や地域団体と協力するなど、ソフトのまちづくりを広げていくことが重要と考え、そのためには次世代に引き継ぐ検討を行う中で出された課題や解決策を様々な視点から分析し、まちづくりの輪を広げることもテーマの一つとしたい。

市民検討会の位置付けや行政や有識者協議会との関係性については、市民検討会はそれぞれの分野に関係する方や公募の方の参加のもと、自由な意見を出していただくことを目的に設置している。有識者には市民検討会をサポートし、市からの意見照会等に専門的な見地から意見をいただくこととしている。

次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり検討に当たり、市民検討会が重要な役割を担っていると考えているが、一方で、委員や有識者の意見に加え、広く市民の意見を聴取した上で、最終的には市が方向性をまとめるものと考えている。

さらに、現在、まちづくりの検討に密接に関わっていただいている市民検討会委員には、魅力あるまちづくりに繋がる取組を率先して実施するなど、次世代に引き継ぐための原動力になっていただくことを期待している。

今後の市民検討会の進め方について、公共施設の検討パターンを提示した場合に、施設の連携や複合化、集約化という視点以外に財政も含めた議論となると思うが、今の段階でそこまでの話ができるのか。

また、市民検討会の中で検討パターンを絞った場合に、そのパターンはどう

いう扱いになるのかを危惧している。将来そのパターンとは異なるものを市が選択した場合に、市民検討会の役割が分からなくなってしまう。ただし、市民検討会は限られた人たちで構成されたものであるため、そこでの意見がそのまま市の原案として採用できないとは思っている。

市では基本計画案の検討時に、どの公共施設を集約するのか、どこに配置するのかなど、設計レベルではないがいくつかのパターンは検討してきている。参考として、これらのパターンを市民検討会に提示することで、施設の整備にはこれだけの金額がかかるということを実感してもらえればと考えている。

また、市民検討会には、最終的なパターンを絞り込んでもらうことまでは求めておらず、複数の検討したパターンに対して色々な意見を示してもらえればよいと考えている。

今後は、市の財政や人口などを踏まえて、まちづくり、公共施設、公園という視点で短期的に対応できるもの、中長期で対応するものを整理し、パターンを検討するための前提条件や4つ目のまちづくりの輪について、市民検討会で議論をいただきたいと考えている。

今後の市民検討会の進め方については、事務局が提示した4つ目の内容を目標としながらも、まずは1つ目の方向性を明確化し、3つ目までは短期的なものとして、今年度中に取りまとめるのが妥当ではないか。

(2) 市民検討会委員アンケートの公表について

これまでの市民検討会の配布資料は全て市のホームページで公表しており、名前や個人情報を削除したアンケート要旨のまとめを公表することは差し支えないと考えている。ただし、アンケート原本などの個人が特定される可能性があるものは公表を控えるべきと考えている。

アンケートを配布した時点で委員にはどのように説明しているのか。

氏名などは公表しないということにしているが、これまで全ての資料を公表してきた経緯から資料の一つとして公表することは理解いただいていると思うが、どのような形で公表するかについては委員には明確な確認はできていない。

市民検討会の中で、公表予定の資料を配布して委員に内容を確認してもらい、公表することについてきちんと承認を得ることが必要である。それでも公表を控えたい部分があるという委員がいれば削除するなど、事務局で対応した上で公表すべきである。

以 上

出 欠 席 名 簿

役 職 名	氏 名	備 考	出欠
日本大学 理工学部まちづくり工学科 准教授	押田 佳子		出席
日本大学 生物資源科学部くらしの生物学科 助教	小島 仁志		欠席
中央大学 文学部人文社会学科 教授	小山 憲司		欠席
青山学院大学 コミュニティ人間科学部 学部長	鈴木 眞理	会 長	出席
東海大学 工学部建築学科 特任助教	野口 直人		欠席
青山学院大学 大学院会計プロフェッション研究科 教授	山口 直也		出席
相模女子大学 人間社会学部社会マネジメント学科 准教授	山本 匡毅	副会長	欠席